

リンパ節診断(治療効果判定)研究部会

「リンパ節診断(治療効果判定)研究部会企画 リンパ節の超音波像と病理像」 座長のことば

座長:藤本 保志(愛知医科大学 耳鼻咽喉科)

リンパ節病理診断において、病理診断の際にはリンパ濾胞やそれを構成するリンパ球の異型性、リンパ濾胞を壊して診断する癌病巣のがん細胞に着目すると思われるが、われわれが超音波診断をする場合は、超音波像で最も目立つ構造であるリンパ節門の位置、構造がより発達しているかどうかに着目して鑑別診断を行っている。

今後、超音波診断と病理診断がコラボして研究を続けることで超音波所見と病理像とが明確にリンクできるようになれば、様々な疾患の診断基準作成が一気に進むものと考えている。

疾患の種類が多彩で、さらに病変が体表近くにあるため詳細な超音波像を得やすい頭頸部領域では、非常に興味深い試みになるのではないかと期待している。